

荒城川を美しくする会（飛騨市）

中心市街地

まちなみ・河川・環境

取組の背景

昭和 30 年代の荒城川は、石積の護岸と美しい桜並木があり、古川町の歴史的な町並みと調和した風情のある川だった。しかし、昭和 40 年代から治水のための護岸工事などにより桜並木は切り落とされてしまった。そこで、当時の美しい荒城川の光景を復活させようとする地域住民の気運が高まり、平成 4 年に「荒城川を美しくする会」が発足した。

（荒城川の概要）

飛騨市古川町は、勇壮な裸祭りである起し太鼓と雅やかな祭り屋台が立ち並ぶ古川祭り、古川の冬の風物詩ともいえる三寺まいり、秋の夜を彩るきつね火まつりなど、歴史と伝統を承継しつつ、時代に即した新たな文化を融合させている。本光寺、真宗寺、円光寺等の寺院や昔ながらの建物が並ぶ白壁土蔵と瀬戸川など、静かなたたずまいを残す、情緒豊かな町である。荒城川はそんな古川町の中心を流れており、美しい町並み景観と人々の生活にとって欠かせないものとなっている。



荒城川の桜

取組の概要

（荒城川を美しくする会）

会 員：45 人

代 表：中家美智雄（平成 10 年度から会長に就任）

活動内容：環境美化活動、飛騨古川「川の日」イベント、荒城川河畔あんどんまつり、荒城川桜復活植樹祭や桜並木の管理等の活動を通して、美しい飛騨市古川町の観光名所とな

るよう、周辺住民の協力を得ながら活動を実施

取組の内容

○平成 4 年から

「河川環境美化活動」

地元ボランティアによる河川美化活動で回収されたゴミを確認することにより、何が影響して河川敷が汚されているかを確認。

○平成 11 年から 15 年

「飛騨古川 川の日イベント」

地元小学校の児童とパケットによる水質調査、カワゲラウオッチング、マスのつかみ捕りを実施

岐阜大学の藤田裕一郎先生による「川から始める町づくり」の講演会を開催

○平成 12 年から 14 年

「川づくり町づくりワークショップ」

岐阜県古川建設事務所が設置した「川づくり町づくりワークショップ」と協働しこれからの川づくりに対する提言書（荒城川再生計画等）を作成

○平成 13 年から 15 年

「荒城川桜復活植樹祭」

古川町観光協会、古川ライオンズクラブ、飛騨古川青年会議所、木の国ふるさとづくりの会、岐阜県造園緑化協会飛騨支部、古川町、古川建設事務所、植樹ボランティアなど約 300 名が参加し桜の苗木を植樹。また、桜並木を育てていく事の証として植樹記念碑を設置

○平成 14 年

「こどもワークショップ」

子供たちと一緒に水質調査を実施し、「気づきマップ」を作成することで川の大切さを学習

○平成 15 年から

「荒城川河畔あんどんまつり」

小学校児童による川柳や願い事をデザインとしたあんどんを製作し、荒城川沿いに展示することで景観づくりへの願いを啓発

平成4年度に荒城川を美しくする会を発足し、河川環境美化活動を継続しながら石積護岸の復元を行政に要望してきた。平成12年度から古川建設事務所が設置した「川づくり町づくりワークショップ」で荒城川再生計画を策定し、昭和30年当時の町並みを復元した。その間、飛騨古川「川の日」イベントや荒城川河畔あんどんまつりを開催し、地元小学生等を対象に川の大切さを啓発してきた。

平成16年の市町村合併により古川町から飛騨市となり補助金が軽減され大きなイベントは出来なくなり、現在は、定期的な河川環境美化活動、桜並木の管理、荒城川河畔あんどんまつりの開催が主な活動となっている。活動規模は縮小したものの美しい町並みを維持するための重要な位置付けとして現在も活動を行っている。

- ・河川環境の悪化に対する危機感
- ・石積護岸や桜並木の復元への想い
- ・地域への愛着

等が要因となり、昔ながらの良好な河川環境や景観を復活させたいという地域住民の意識が高揚したことと、地域と行政の協働作業による「川づくりワークショップ」の活動が成功の要因と考えられる。



川づくりワークショップ

成果

○昭和30年代の町並みの復元

- ・石積護岸の復元
- ・桜並木の復元
- ・植樹記念碑の設置

古川建設事務所が設置した「川づくり町づくりワークショップ」で「荒城川再生計画」を策定し、石積護岸と桜並木を復元した。また、桜並木を育てていく事の証として植樹記念碑を設置した。

○地域、地元企業、行政が一体となった取り組み

- ・河川環境美化活動の実施
- ・飛騨古川 川のイベントの開催
- ・荒城川河畔あんどんまつりの開催

清掃活動を定期的に行うとともに、川づくりに関する各種イベントを開催することで川づくりの大切さを啓発した。

「自分たちが遊んだ川の経験を子供や孫に伝えたい。」「良好な環境を将来に残したい。」という思いを一つに河川の整備や大きなイベントも住民と行政との協働作業により実施することができた。

成果の要因

○住民と行政による協働作業

今後の課題

○組織体制の強化

会員の多くは高齢者なため、若い世代にも積極的に参加してもらえる組織体制の強化が必要となっている。

○より良い川づくりを目指して

石積護岸と桜並木は復元され、守る会の当初の目的は達成された。今後は、単なる清掃活動にだけでなく川を水質から良くしていくような啓発活動が必要である。

行政への期待

桜並木の管理には年3回程度の害虫駆除が必要であるが、美しくする会の運営経費だけでは不足するため行政からの支援が必要である。また、川づくりの啓発活動にも協力して欲しい。

この人にお話をうかがいました！

荒城川を美しくする会

代表 中家美智男さん

調査日：平成18年10月30日（月）

調査者：飛騨振興局 飯島